

空港が観光名所に、大型商業施設「JEWEL(ジュエル)開業

礎 知子

2019年4月17日、シンガポールのチャンギ国際空港敷地内に大型商業施設「JEWEL(ジュエル)」がオープンしました。空港の第1ターミナルに直結し、地上5階、地下5階建てで、約280の店舗が出店しています。

「え、またショッピングセンター？どうせお馴染みのブランドばかりでしょう」と思っていたのですが、出店の60%はシンガポール初となるブランドだとのこと。確かにこれまでシンガポールでは見かけなかった米国のスポーツシューズチェーンのFoot Lockerなども見かけました。シンガポールに初出店のニューヨークのハンバーガーチェーンのShake Shackにはいつも長い行列ができています。

＜JR東日本のショップで各地の産品を紹介＞

日本のお店も多数出店しており、ラーメン、寿司などの日本食レストランから、源吉兆庵の和菓子、無印良品のMUJI、東急ハンズ、ユニクロなどのショップなど多彩です。その中でシンガポール初となるのが、JR東日本が展開するJW360°（ジェイダブリュー・スリーシックスティ）。レストラン、カフェ、物販を行っています。カフェでは、抹茶を中心としたケーキやそば粉ラテなど日本ならではのメニュー。物販ではJR東日本が日本国内で展開する地産品セレクトショップ「のもの」が海外初出店しています。お店を見たところ、広島の商品ではヤマトフーズ社の「レモスコ」がありました。



【JW360° セレクトショップ「のもの」】

＜チェックインカウンターやホテルも併設＞

JEWEL(ジュエル)は空港直結という立地もあり、チェックインカウンターやラウンジもあります。さらにスーツケースを持っていたとしても、JEWEL(ジュエル)の中を気軽に歩き回れるように、荷物の預かり所も整備されています。

＜施設内に巨大な滝＞

お店もたくさんありますが、一番の見どころは、室内にある滝としては最大級の40メートル「HSBC レインウォールテックス」。その周りを、4フロアにまたがる「資生堂フォレストバレー」が囲んでいます。フォレストバレーは世界中から集めた900本を超える木々や椰子、およそ60,000本の灌木で作られた人工の公園。全ての植物は本物で、さながら室内森林浴。植物に囲まれた階段があるので、上から、下から、レインウォールテックスを背景に写真を撮る人が大勢いました。さらに、圧巻なのは、レインウォールテックスとレインフォレストの中を、空港ターミナルをつなぐスカイトレインが走っていること。レインウォールテックスでは毎日、夜7時半以降、1時間ごとに光と音楽のショーが楽しめます。



【ターミナル間を結ぶスカイトレインとレインウォールテックス】

映画館もあり、その一部はシンガポール初のキッズフレンドリーホールとなり、子供向けに照明や音響に優しく、家族で観ることができる映画を上映しています。

さらに、6月には子供も大人も楽しめる遊び場、巨大迷路「ヘッジメイズ」や巨大滑り台「ディスカバリースライド」、空中に設置されたネットを歩いて渡る「バウニング・ウォーキングネット」がある「キャノピーパーク」がオープンします。

航空便誘致の国際競争も激化する中、優位性を保つために常に進化を遂げているシンガポールの空港。大人も子供も楽しめるエンターテインメント空間、ジュエルはまさに、「乗り継ぎの時間つぶし」の場を提供するのではなく、「空港を観光名所」に変える、巨大プロジェクトなのです。